

最先端光科学が拓く 地球型系外惑星探査

日時 2025年9月7日(日) 13:30~17:00

名城大学 天白キャンパス S301会場

恒星から適度な距離である生命居住可能領域(Habitable zone)に位置する地球型惑星の探査は、宇宙望遠鏡と地上望遠鏡の両面から、また相補的に盛んに行われており、検出数が増え続けています。そして、より高性能な次世代の地上望遠鏡、宇宙望遠鏡の国際的な計画が進められており、日本の貢献が期待されます。このような状況の中で、高コントラスト・高解像度撮像技術や視線速度精密観測技術を始めとする地球型系外惑星探査技術は、究極的な光科学技術および広い裾野の光科学技術の集合により拓かれています。本シンポジウムでは地球型系外惑星探査を支える光技術に焦点をあて、最新研究動向を議論します。

招待講演者

- 米田 謙太(宇宙科学研究所)
地球型系外惑星探査を目指した高コントラスト観測技術開発
- 大屋 真(国立天文台)
大気ゆらぎを補正する補償光学
- 福井 暁彦(東京大学)
トランジット法を用いた地球型系外惑星探索の最前線
- 小谷 隆行(アストロバイオロジーセンター)
太陽系外惑星探査のための精密視線速度測定装置と
導波路型干渉光学素子の開発について
- 芹澤 琢磨(東京農工大学)
すばる望遠鏡に導入された系外惑星探査用近赤外天文コム装置
- 大久保 章(産業技術総合研究所)
天体視線速度高精度測定のための
Erファイバコム型可視域波長標準光源

世話人: 柏木 謙(産業技術総合研究所)

企画: 応用物理学会 光波センシング技術研究会